

氏名	田場 真里
学位の種類	博士（応用情報科学）
学位記番号	博情第66号
学位授与年月日	令和4年 9月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当（課程博士）
論文題目	ICT活用によるメンタルヘルス不調予防のためのサポートに関する研究
論文審査委員	（主査）教授 石垣恭子 （副査）教授 原口 亮 （副査）准教授 高見美樹

学位論文の要旨

ストレス社会とも言われる現代において、メンタルヘルスの不調は誰にでも起こりうる身近な問題である。メンタルヘルス不調の原因となる悩みやストレスに関する調査によると、壮年期以降では健康問題に関して、青年期では学業に関して悩みやストレスを抱えている人が多いことが報告されている。特に壮年期以降の人々が抱える健康問題に関する悩み・ストレスとして慢性疾患があるが、その中でも末期腎不全により透析を必要とする人は、抑うつが高頻度に生じることが問題となっている。一方で青年期の大学生では、学業不振による中途退学が、メンタルヘルスのみならずその後のキャリア設計も含め問題となっている。昨今、こうした社会的課題の解決、そして個人の Well-being までをも目指した ICT 利活用が期待されている。

そこで本研究では、ストレス社会と言われる現代を生きる人々のメンタルヘルスの不調予防に加え、人々がメンタルヘルスを良好に保ち、Well-being を実現できるよう、ICT を活用したそのサポートの在り方について検討することを目的とした。

具体的には、壮年期の人々の主なストレス・悩みの原因となる健康問題として、慢性疾患を取り上げ、その中でも末期腎不全により透析を必要とする人（透析患者）のメンタルヘルス不調の中心的問題である抑うつに着目し、透析患者の抑うつを予防・改善するためのサポートの在り方について検討した。また、青年期の大学生の主なストレス・悩みの原因となる学業不振に関する問題については、それを予防するにとどまらず、より高い学習成果を目指し、昨今注目を浴びているアクティブ・ラーニングをオンライン上で効果的に展開する、オンライン上アクティブ・ラーニングの在り方について検討した。

第 1 章では、わが国のメンタルヘルスに関わる人々のストレスや悩みの現状について、壮年期以降、および青年期を中心に触れ、その対策が求められている本研究の背景、および本研究の構成について述べた。

第 2 章では、透析患者のメンタルヘルス不調の中でも抑うつに関する先行研究を概観し、そのリスク因子とともに、その改善あるいは予防が期待できるサポートとして医師のサポート、看護師のサポート、ピアサポートについて述べた。

第 3 章では、交絡因子を統制した上での医師のサポート、看護師のサポート、ピアサポートが透析患者の抑うつに及ぼす影響をロジスティック回帰分析により明らかにし、透析患者の抑うつに対し、医師・看護師はどのようなサポートを提供すべきか、またピアからのサポートをどのように活用すべきか、その方略について検討した。

第 4 章では、大学生の中でも看護系大学生の中途退学率の高さと学業不振について説明したのち、学業不振を予防し、学習成果を高めるサポートとして効果が期待できるアクティブ・ラーニングという教育・学習手法について述べた。さらに、オンライン上アクティブ・ラーニングによる学業不振予防および学習成果向上への期待について述べた。

第 5 章では、オンライン上アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の一例として、オンライン上グループワークをとりあげ、看護系大学生の社会的スキルとともに、その授業における彼らの態度・認知が学習意欲や学習理解といった学習成果にいかに関係するかを重回帰分析により明らかにした。さらにその結果をもとに、看護系大学生の学業不振のみならず、高い学習成果が得られるための効果的なオンライン上アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の在り方、それをういたサポートの在り方について検討した。

第 6 章では、第 3 章と第 5 章の研究の結果を踏まえ、メンタルヘルスの不調予防のみならず、人々がメンタルヘルスを良好に保ち、Well-being を実現できるよう ICT を活用したそのサポートの在り方について総合的に考察した。

論文審査の結果の要旨

ストレス社会とも言われる現代において、メンタルヘルスの不調は誰にでも起こりうる身近な問題である。メンタルヘルス不調の原因となる悩みやストレスに関する調査によると、壮年期以降では健康問題に関して、青年期では学業に関して悩みやストレスを抱えている人が多いことが報告されている。特に壮年期以降の人々が抱える健康問題に関する悩み・ストレスとして慢性疾患があるが、その中でも末期腎不全により透析を必要

とする人は、抑うつが高頻度に生じることが問題となっている。一方で青年期の大学生では、学業不振による中途退学が、メンタルヘルスのみならずその後のキャリア設計も含め問題となっている。昨今、こうした社会的課題の解決、そして個人の Well-being までをも目指した ICT 利活用が期待されている。

本研究では、ストレス社会と言われる現代を生きる人々のメンタルヘルスの不調予防に加え、人々がメンタルヘルスを良好に保ち、Well-being を実現できるよう、ICT を活用したそのサポートの在り方について検討した。

まず、壮年期の人々の主なストレス・悩みの原因となる健康問題として、慢性疾患を取り上げ、その中の末期腎不全により透析を必要とする人（透析患者）のメンタルヘルス不調の中心的問題である抑うつに着目し、透析患者の抑うつを予防・改善するためのサポートの在り方について検討した。

次に、青年期の大学生の主なストレス・悩みの原因となる学業不振に関する問題については、それを予防するにとどまらず、より高い学習成果を目指し、オンライン上アクティブ・ラーニングの在り方について検討した。

その結果、透析患者の抑うつに対する効果的なサポートとは、患者の身体的な症状を可能な限り抑えるサポートであることが見出された。すなわち、看護師による保健情動的サポートであることが示され、ICT を活用した効果、効率的な情報提供が必要であることが示唆された。

また、青年期の大学生の主なストレス・悩みの原因となる学業不振に関するサポートとしては、オンライン上グループワークをとりあげ、「GW の良さ」や「GW への貢献」が学習意欲の自信につながり、さらに学習理解への関係性が示唆された。看護系大学生の学業不振のみならず、高い学習成果が得られるための効果的なオンライン上アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の在り方、それを用いたサポートの在り方が見出された。

これらのことから、本研究では、青年期の学生、壮年期の慢性疾患を抱える人々のメンタルヘルスの不調を予防するための非常に有効なサポートが確認され、そのサポートを実施するにあたり、ICT の利活用の具体的方略が示された。

以上を総合した結果、本審査委員会では、本論文が「博士(応用情報科学)」の学位授与に値する論文であると全員一致で判定した。